

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 中央技研工業株式会社 第2工場 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q1 建築物の環境品質</b>						<b>2.3</b>	
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>		-		<b>2.6</b>		
<b>1 音環境</b>		<b>2.5</b>	0.15		-		<b>2.5</b>		
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40		-				
1.2 遮音		<b>1.8</b>	0.40		-				
1 開口部遮音性能		<b>1.0</b>	0.60		-				
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>3.0</b>	-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>3.0</b>	-		-				
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20		-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.7</b>	0.35		-		<b>2.7</b>		
2.1 室温制御		<b>2.5</b>	0.50		-				
1 室温		<b>3.0</b>	0.38		-				
2 外皮性能		<b>1.0</b>	0.25		-				
3 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38		-				
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20		-				
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30		-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.4</b>	0.25		-		<b>2.4</b>		
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30		-				
1 昼光率		<b>3.0</b>	0.60		-				
2 方位別開口		<b>3.0</b>	-		-				
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40		-				
3.2 グレア対策		<b>1.0</b>	0.30		-				
1 昼光制御		<b>1.0</b>	1.00		-				
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15		-				
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25		-				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25		-		<b>3.0</b>		
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50		-				
1 化学汚染物質		<b>3.0</b>	1.00		-				
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30		-				
1 換気量		<b>3.0</b>	0.33		-				
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.33		-				
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20		-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	0.50		-				
2 喫煙の制御		<b>3.0</b>	0.50		-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>		-		<b>3.1</b>		
<b>1 機能性</b>		<b>2.6</b>	0.40		-		<b>2.6</b>		
1.1 機能性・使いやすさ		-	-		-				
1 広さ・収納性		-	-		-				
2 高度情報通信設備対応		-	-		-				
3 バリアフリー計画		-	-		-				
1.2 心理性・快適性		<b>2.3</b>	0.50		-				
1 広さ感・景観		<b>3.0</b>	0.33		-				
2 リフレッシュスペース		<b>3.0</b>	0.33		-				
3 内装計画		<b>1.0</b>	0.33		-				
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.50		-				
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50		-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.30		-		<b>2.8</b>		
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.0</b>	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20		-				
2.4 信頼性		<b>2.0</b>	0.20		-				
1 空調・換気設備		<b>3.0</b>	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		<b>2.0</b>	0.20		-				
3 電気設備		<b>1.0</b>	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		<b>3.0</b>	0.20		-				
5 通信・情報設備		<b>1.0</b>	0.20		-				

3	対応性・更新性		4.2	0.30		-	4.2
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30		-	
	1 階高のゆとり	軒高さ:9.5m ※断面図参照	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由度	壁長さ比率=242.84m/2625.00m=0.09(WC部を除く) ※別図参照	5.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり	製作機械の荷重より算定	5.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.40		-	1.4
1	生物環境の保全と創出		1.0	0.30		-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40		-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		1.0	0.30		-	1.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						2.7
LR1	エネルギー		-	0.40		-	2.5
1	建物外皮の熱負荷抑制		-	-		-	-
2	自然エネルギー利用		-	-		-	-
3	設備システムの高効率化		-	-		-	-
4	効率的運用		2.5	1.00		-	2.5
	集合住宅以外の評価		2.5	1.00		-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制		2.0	0.50		-	
	集合住宅の評価		-	-		-	-
	4.1 モニタリング		-	-		-	-
	4.2 運用管理体制		-	-		-	-
LR2	資源・マテリアル		-	0.30		-	3.1
1	水資源保護		2.2	0.20		-	2.2
	1.1 節水		1.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60		-	3.0
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		4.4	0.20		-	4.4
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		5.0	0.70		-	
	1 消火剤		-	-		-	-
	2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤不使用	5.0	1.00		-	
	3 冷媒		-	-		-	-
LR3	敷地外環境		-	0.30		-	2.7
1	地球温暖化への配慮		-	-		-	-
2	地域環境への配慮		2.5	0.50		-	2.5
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.50		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音		3.0	1.00		-	
	2 振動		-	-		-	-
	3 悪臭		-	-		-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制		-	-		-	-
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○		○	○	-	○		○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	2.0		-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0		-	-	2.0	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標		窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)	
Q1 室内環境	2.1.3 外皮性能	U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
		住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC
					ηAH
3.1.1 屋光率		屋光率	1.5%		
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積率	3.3%		
Q2 サービス性能	1.1.1 広さ・収納性	執務スペース	0.0㎡/人	病床	0.0㎡/床
	1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量	30.0 VA/㎡	シングル	0.0㎡ ツイン
	1.2.1 広さ感・景観	天井高	2.5 m		
	1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%
	2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数	30 年		
	2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔	20 年		
	2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔	0 年		
	2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔	0 年		
	3.1.1 階高のゆとり	階高	9.5 m		
	3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率	9.2%		
	3.2 荷重のゆとり	床荷重	15000 N/m2		
Q3 室外環境(敷地内)	1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数	0%	建物緑化指数	0%
	3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率	20%	水平投影面積率	0%
		地表面対策面積率	0%	舗装面積率	0%
LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub>	-	新熱等性能等級	対象外 相当
	2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%
				採光を満たす住戸数	0.0%
				通風を満たす教室数	0.0%
				通風を満たす住戸数	0.0%
	3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub>	非住宅	-	住宅
				太陽光	0.0kW
				太陽熱等	0.0kW
				蓄電池	0.0kW
LR2 資源・マテリアル	1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率	0.0%		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目	-	エコマーク商品	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率	5.0%	自治体指定の特定品目等	-
	3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
	3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	
	3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比	46%	隣棟間隔指標Rw	0.40
		地表面対策面積率	0.0%	屋根面対策面積率	0.0%
				外壁面対策面積率	0.0%
		見付面積Sb	735㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	167.65 m
				基準高さHb	9.5 m
		緑地	㎡	水面	㎡
		保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
				再帰性反射対策面	㎡